

長野市にJリーグを！「スポーツを軸としたまちづくり」市民会議（H24.10.24）

AC長野パルセイロ「Future Image」の説明内容（AC長野パルセイロ 足達勇輔スポーツディレクター）

改めまして、こんばんは。スポーツディレクターの足達と申します。

私の方からは、これからのパルセイロがどのように進んでいくのかということに絞ってお話させていただきます。ここに「Future Image」と書いてありますが、これからお話することは、これから、このクラブがどのように進んでいきたいか、どんなイメージのクラブになっていきたいかという話ですので、ある意味では現実にはないもの、「夢」として考えていることが多くあります。

皆さんには、夢がありますか？夢を持たれたことはありますか？おそらく多くの方が、幼い頃にはいろいろな夢を持っていたと思います。その夢が叶った方もいれば、途中で叶わなかった方もいると思います。新しい夢を見つけて進んでいる方もいると思います。

私は、昨年まで、東北の地域を巡回するトレセンコーチをしていました。一昨年の3月11日に東日本大震災があり、私の担当している地域にも大きな被害がありました。沿岸に多くの避難所があって、被災地支援として私に何ができるか考え、サッカーボールを1つ持って出かけていきました。グラウンドは使えないので、空いている場所を探して、子どもを集めてサッカーをする。少し経つと、子どもはすごく活発になって、目をキラキラさせてボールを蹴ってくれました。子どもたちにとっては、サッカーをする時間がいろいろなことを忘れられる時間となり、行く度に「サッカーをやろう」と私のところへ歩み寄ってくれました。そこで見た光景で一番印象に残っているのが、被災地に行かれた方は分かると思いますが、避難所は、とても人が寝泊りできるような環境ではないということです。臭いもすごいし、いろいろな嫌な思い出もそこにたくさんあります。でも、そこから出てきたお年寄りが、子どもたちの姿を見て笑顔になるんです。この笑顔を見た時に、子どもは財産だと思いましたし、スポーツが果たせる役目ってこんなにあるんだと心から思いました。長い間サッカーに関わってきましたが、この時ほどスポーツの力の大きさを感じたことはありません。そういう経験を1つのクラブでいかし、自分の力で、いろいろなイメージを持ったまちのためになるようなクラブにできないかと思ったことが、私がこのまちにお世話になろうと決心した1つの理由です。このまちに来た後も、ロンドンオリンピック後のパレードには、約50万人が集まりました。改めて、スポーツはすごいなと思いました。こんなスポーツの力を、何とかこのまちで引き出すことはできないかと思い、ここに「AC」とありますが、サッカーだけではなく、他のスポーツの力も借りて、もしくはスポーツ以外の力も借りてできないかと考えています。今はこのクラブで、アイスホッケーと一緒にやっていますが、将来的に、ラグビー、アメリカンフットボール、バスケットボール、ダンス、ゲートボール、卓球、バドミントン等、何があってもいいと思います。とにかくスポーツの力を最大限に活用して、このまちに活気、笑顔、子どもたちの夢というものを何とか引き出せないかと思っています。

次に、「NAGANOに存在する意義」と「活動理念」についてですが、オリンピックのあったまちですので、あえてアルファベットで「NAGANO」と書かせていただきました。私事ですが、私はアジアサッカー連盟でも仕事をしていて、来週も中国に指導者養成をしに行きます。その仲間に、長野に移ることになったと報告したら、驚いたことに、ほぼ全員が長野というまちを知っていました。おそらく、オリンピックが開催されたまちであるからだと思います。しかし、2月にこのまちに引っ越してきてみたら、スキー場は閑散としているし、夏にはスケート場も閉まっているし、ウィンタースポーツはどこに行ってしまったのかというのが正直な感想でした。AC長野パルセイロは、オリンピックの有形無形の財産を、とにかくもう一度活性化して、子どもの夢になるために力を尽くせたらと考えています。サッカーだけではなく、いろいろな力を1つにしていきたいと考えています。ここにパルセロナというチームの写真があります。これは、ハンドボールの写真です。パルセロナといえ

ば、サッカーでは世界トップレベルのチームですが、私はこのクラブに研修に行ったことがあります。バスケットボールのアリーナやハンドボールのコート、フットサルのコートがあって、子どもたちがサッカーをやる広い広場があって、それ以外にもいろいろなサークルがありました。なぜ、そんなことができるのかを聞いたところ、クラブの財政を一番支えているのはサッカーで、それ以外の種目にも、まちのためにお金を拠出しているということでした。それが、このクラブの素晴らしいところだと思います。私は、ドイツに長く暮らしていましたが、ドイツにはいろいろなクラブがあります。クラブの頭には、長野のACのように、BVやTSVといったいろいろな頭文字が付いています。BVだと、球技を中心としたクラブになります。TSVだと、サッカーと一緒に、床運動、柔道、剣道、マット系のものや、水泳が入ってきます。そのようなクラブが、ドイツ中にあります。そこで、いろいろなスポーツを楽しみながら、いろいろなコミュニティができて、だいたいクラブハウスには人が集まれるバーがあります。そのようなクラブにすることを夢見て、このまちでも、スポーツの力を最大限に活用していきたいと考えています。その時に大事になってくるのが、このクラブを代表するチーム、方針、それら全てが、「お手本」であるべきだということです。オリンピックで世界中に名前が知れた、この「NAGANO」というまちから、世界をターゲットに、もう一度スポーツを通して何か発信できないかと思っています。後ほど、このことについては細かくお話したいと思います。おそらく、そのパワーがまちの中に充満してくると、シンボルを持って、このまちを1つにする力を持てるのではないかと思います。例えば、海外では、おじいちゃんが孫の手を引いて試合を観に行き、楽しそうな顔をして帰るといったような光景をよく目にします。この光景は、アルビレックスのある新潟でも見かけました。新潟にはビッグスワンという素晴らしいスタジアムがあって、そこにおじいちゃんが孫と一緒に試合を観に行き、そこで1つの話題がうまれるような、そんな楽しそうな光景でした。近年、新潟には、アルビレックスを通じていろいろなスポーツが増えてきています。パルセイロも、同じように、この「NAGANO」というまちを1つにまとめるような役割を果たせないかと考えています。それが実現できたときに、それを文化というのかと思います。このまちに必要とされているもの、なくてはならないもの、毎日食卓で話題に上るもの、そんなものができてきたら、それが文化なのかと思います。

クラブを応援していただくために、そして我々みんなが力を合わせて、将来の子どもたちのためにいろいろな夢をつくること、お手本であること、そうなってくると「品格」というものが非常に大事です。このクラブというものが、まちになくてはならない品格を備えたクラブになっていくこと、他の手本になること、そういうことも大事にしていきたいと思っています。

ここからは、少しサッカーというものに特化してお話します。例としてサッカーを取り上げますが、他の種目も全く同じ考え方をさせていただいてよろしいかと思います。

まず、どうやってプロの選手が生まれてくるのかということですが、例えば有名なサッカー選手や代表選手は、日本のどのまちから多く出ていると思いますか？残念なことに、長野ではありません。今は静岡市と名前が変わりましたが、清水です。清水という本当に小さなまちから、多くのJリーガーや代表選手を輩出しています。清水から、本当にサッカーの才能を持った子が生まれているのでしょうか。長野市には、サッカーの才能を持った子が生まれていないのでしょうか。決してそんなことはなくて、生まれた場所に環境があるかどうかの問題なのです。ある北海道のまちに、ジャンプの選手が多く出ているまちがあります。なぜかという、そこに環境があるからです。長野のまちからも、環境をつくれればプロのサッカー選手は多く出ます。その環境をつくるのは、我々大人の義務なのです。選ぶのは子どもかもしれません。バスケ、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールや卓球の環境等、子どもたちが、何かを目指したいと思った時に、選択肢のある環境をつくっていくことが、我々の義務であり責任なのです。それを、スポーツに関しては、我々は負っていききたいと思います。

選手の育っていく過程ですが、「スキヤモンの発育曲線」というものがあります。分かりやすく言えば、自転車に乗れるようになるのはいつですか、大学生になって海外留学したらネイティブになりますかということです。神経系というところに働きかけられるゴールデンエイジは、ほぼ10歳から12歳で大人と同じ完成の域に入ります。残念ながら、神経系が完成する時に多くの刺激を受けていないと、技術がつかないし、語学でいうと発音が自分の中に残っていかないのです。生理学的なことなので、ずらすことはできません。そうすると、この年代をしっかりと押さえておかないと、このまちからは永遠にサッカー選手は出てきません。他のスポーツも同じです。ここに環境をつくる必要があります。

この話と、パルセイロにどんな関係があるかという、パルセイロは現在JFLで2位です。仮に、2年後、3年後にJ2に昇格したとします。このチーム力がずっと維持されていたとします。先ほど、社長から説明がありましたが、このぐらいの運営規模のクラブは、何億もする選手は簡単には買えないので、いつも安い選手を探して買ってきます。それで本当にJ1に昇格できるかといったら、計画的に進めていかない限り昇格はできません。ある日、後ろを振り返って見たら選手がいなくて、これは、メキシコオリンピックでサッカーが銅メダルを獲った時の反省です。東京オリンピックを目指して、その次のメキシコでメダルを獲りました。日本の選手が得点王になりました。世界で初めてのフェアプレー賞も獲りました。メキシコの本拠地で、メキシコを破って銅メダルを獲りました。素晴らしかったです。私も小さい頃にテレビで観た記憶があります。その後44年間オリンピックに出られなくなりました。しかし、今の子どもたちは、ワールドカップに出るのが当たり前です。この空白の44年間で生まれた理由は、後進の選手を育成しなかった、指導できる指導者を養成しなかった、そして子どもが目指すような環境をつくらなかったからです。キャプテン翼には大感謝です。キャプテン翼のおかげで、サッカーをやる子どもが増えました。そして、日本サッカー協会が、指導者養成をやって、トレセンをやって、代表強化をやって、ようやくここまで来ました。トップチームにばかり目を向けていると、同じようなことが長野でも起きます。12歳の子は、10年後の選手です。22歳になった時に慌てても手遅れです。今、力を入れて、投資をして、子どもたちのために何かをつくっておかなかつたら、10年後にこのまちからスポーツはなくなります。ゴールデンエイジは1回しかこないのです。

小さな子どもに、効率の良いトレーニングの環境をつくるためには、育成年代の充実が大事になってきます。そんな理由で、我々のアンバサダーも巡回しています。ここにいる大橋選手も、選手でありながら巡回に行ってくれています。それは、子どもたちに、いろいろな刺激を与えるためです。私たちは、12歳以下の世代が一番大事な世代だと考えます。サッカー以外のスポーツも含めて、全ての財産になると思います。子どもたちに良いものを見せて、良い環境をつくって、子どもたちが夢を持てるようなものをつくっていく必要があると思います。

長野市サッカー協会には、お願いをしています。ドイツでは、育成年代の試合は、絶対にプロの試合の日程とかぶりません。良い試合を観せるために、試合の日程をずらしているのです。指導者も選手も、プロの試合を観に行きます。日本では、試合日が重なってしまって、指導者が試合を観られません。おそらく、長野市の中でいろいろな工夫をすれば、この点は改善できると思っています。細かいことを含めて、いろいろなことを積み上げていかなくてはいけないと考えています。

我々は、この12歳の年代に対して、サッカースクールを多く展開したいと考えています。チームは作りません。既に、長野市内で多くのサッカースポーツ少年団が活動しています。この活動をリスペクトしながら、選手が平日練習できないところに、正しい刺激を入れるために、スクール展開をしたいと思っています。それから、選手の生活圏を守るために、自転車で通える範囲に、拠点をつくっていきます。サッカーだけでなく、いろいろな種目ができたら、なお良いと思います。この環境を充実させていきたいと思っています。そのためには、投資が必要になります。そして、この裾野を広げることによって、トップチームはもっともっ

と上を目指すことができます。ただし、育成を始めてから10年後にならないと結果は出ません。

今年、ロンドンオリンピックがありました。男子のサッカーでは、セレッソ大阪の選手が3名入っていました。実は、私は12年前にセレッソ大阪で育成の組織をつくりました。その時は、スクールを15校開講して、ジュニアユースを3校増やして、ユースチームもつくりました。その時に10歳で、私の目の前で練習をしていたのが、山口、扇原、杉本健勇でした。少し上には、柿谷曜一朗という選手がいますが、セレッソ大阪で、得点を一番取っている日本人です。組織や仕組みを整えるだけで、子どもはこんなに育つんだということを、今年、改めて実感しました。結果が出るまで10年かかりますが、10年後に、このまちには大きな喜びが生まれます。そのためには、投資が必要になります。裾野を広げると、高みが出るということを図にしてみました。裾野を広げて、子どもたちが夢を見られる環境をつくって、タレントに触れる環境をつくると、当然高みが出てきて、おそらく世界とのギャップが埋まってくると思います。

15歳以下の年代は、生活圏を守ったところに3箇所くらいスクールを展開したいと考えています。現在も、上田や信濃町から通っているのですが、子どもたちが通う範囲としては無理があるので、こういうことも考えていきたいと思っています。

そして、18歳は強化の年代に入るので、午後1回の練習では難しい年代になります。できれば午前、午後の2部練習ができる環境をつくっていききたいということで、市内の高校と連携できないか模索しています。学業とスポーツの両方を優先していけるような環境をつくっていききたいと思っています。このモデルは、日本では、サッカー協会が行っているものしかなく、クラブチームが行っているものはないので、こんなモデルもつくれたらと思っています。

繰り返しになりますが、まずはトップチームが活躍して高みを作っていくことで、チームの財政が豊かになり、育成に投資ができて、子どもたちがさらなる高みを作っていくというような好循環に繋がります。まちを笑顔でいっぱいにして、豊かにしていきたいという思いで、この「Future Image」というものを考えています。

レディースも充実させていきたいと思っています。一番落ち込むのは中学生の年代になります。小学生の年代は、少年団に加入しているのですが、中学生になると、女の子のプレイできる環境が極端に少なくなります。10分の1程度に減ってしまいます。我々としては、13歳から15歳を対象にサッカースクールを立ち上げていきます。そして、それをレディースのトップチームに繋げていきたいと思っています。現在所属する「なでしこチャレンジリーグ」から、「なでしこリーグ」に夢を広げていきたいと思っています。

このようなことで、サッカーを例に取ることが多かったのですが、我々は、「AC長野パルセイロ」ですので、サッカー以外のスポーツも含めて、子どもたちの夢を広げ、まちに笑顔と幸せをとることを考えていきます。

今後、スタジアムには、アウェイからたくさんのお客さんが来るようになると思います。おそらく、関東から立地の良い場所なので、多くのクラブのサポーターがここに訪れるでしょう。そのようなサポーターがスタジアムに来て、まちを潤していく、これもまた、このクラブが存在する1つの意味かと思っています。シャトルバス等を整備して、子どもたちがもっと観に来られるような環境も大事だと思います。

そして、観戦に行くお客さんが快適でないといけません。日本の場合、競技場という呼称が非常に多いのですが、欧米ではスタジアムと競技場は区別されていて、スタジアムは観る人が非常に快適であるという場所になります。そういうスタジアムの存在も、非常に大事なものであり、いろいろなものをより良い方向に動かしてくれるものになると思います。

このようなイメージを持って、クラブづくりをしていきたいと思っています。今後とも、よろしくお願いします。